

平成28年度事業報告

概要

英国の国民投票での EU 離脱決定、米国トランプ大統領の誕生、韓国での大統領弾劾罷免など激動の一年であった。トランプ新大統領による TPP 脱退、「アメリカ・ファースト」に象徴される自国第一主義は、自由貿易による世界経済の発展には大きな障害となっている。また IS やシリア、北朝鮮といった紛争の火種も世界経済が安定して発展することを妨げている。国内では経常収支がリーマン・ショック前の水準に戻る、あるいは年間平均有効求人倍率が 1.36 倍となるなど日本経済は緩やかな回復基調にあるといわれている。しかしながら計上収支の黒字は原油安や円相場の相対的上昇による輸入額減が寄与しているともいわれており、先述した不安定な世界経済の下では、一気に下降する疑念がぬぐえない。

国内に目を向けると、企業の倒産数こそ低水準ではあるものの、非正規労働者数は年々増加し、全雇用者の三分の一を超えている。パートや契約社員、派遣労働者といった人々は正規雇用者に比べ賃金が安いいため、総体としての可処分所得は低下してゆく。アベノミクスによる好景気誘導策は人々が消費行動に向かうことが狙いであるのに、消費が伸びて緩やかな物価上昇をよぶことはなかった。結果日本経済は内需拡大による好循環には程遠く GDP の伸びは低調であった。

多くの健康保険組合など医療保険者においては、好調な企業収支や新卒求人倍率の上昇を受け、疾病予防予算のさらなる削減こそ鳴りをひそめたものの、後期高齢者支援金の負担増と、定年延長による疾病者の増加を見越してか、予算の増額には至らず、新規検査あるいは補助の拡大には結びつかず、高額な人間ドックから低価格の生活習慣病健診への変更の流れも続いている。なお、特筆点として、予約代行機関として始まった一部企業による健康診断、人間ドックの予約業務が、低価格への価格誘導を露骨に推し進め、企業・健保側も支出の削減になるとして契約を増やしている点がある。我々を含め医療機関側は有効な対抗策を見いだせずに年々健保との直接契約を失い、予約代行機関との契約を結ばざるを得なくなっている。また、一部医療機関でみられた合併や大型機関による吸収・系列化は一段落ついた模様である。

当財団としては独立性を保ちながら医療サービスの確保に必要なコスト、ひと・モノに関する財団施設の優位性を粘り強く説明しながら、顧客の維持・新規獲得に注力した。

かかる状況の中、人間ドックについては前年比減となったが、健康診断、特に生活習慣病健診の伸びが大きく、総体として東都クリニック、霞が関ビル診療所ともに最終的には前年対比増を達成することができた。財団は、前年度に引き続き、平成28年度も設立目的である『労働者の疾病予防および健康の保持増進』を中心に据え、すべての人の保健と福祉に寄与すべく積極的に活動した。また、組織的には理事会、評議員会、事務局を中心に、平成28年度事業計画に基づき、以下の事業について、既存事業の充実と新規事業の具体化、より信頼される体制作りを行った。

- I. 健康診断事業
- II. 健康指導
- III. 診療事業
- IV. 衛生思想の普及啓発（各種講習会・講演会・研究会等の開催、広報活動）
- V. コンピューターシステムの推進、施設・設備等の整備
- VI. 精度管理
- VII. 会議

I. 健康診断事業

1. 健康診断

事業主・労働者に対し、労働安全衛生法の意義・遵守の必要性と、疾病の早期発見の重要性などについて宣伝普及に努め、各種健康診断の実施と健診結果の活用を訴えた。特に健康診断受診率の向上と、生活習慣病予防のための健康診断導入を勧奨した。

東都クリニック、霞が関ビル診療所ともに総受診人数、総収入ともに前年度を上回り、順調な伸びを達成することができた。ただし、従来の人間ドック対象者が生活習慣病健診と姿を変えて受診する場合もあり単純な健診受診増ではないことは注意が必要である。二次検査については、今年度は増加をみたものの、再検査・精密検査等を事業主負担でなく本人の負担で行なう（保険診療で行う）流れはもはや定着したこともあり、今後も増加は難しいと思われる。

なお、複数の健保組合の集合契約による健康診断（東振協）や予約代行機関（イーウェル、バリューHR、ウェルネスコミュニケーションズ、ここカラダ等）による健診が従来の健保・企業の一定の規模を占める流れは変わらず、今後もその割合は増加してゆくものと思われる。

健診種別	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
定期	19,699	19,710	18,220
生活習慣病	15,365	12,912	13,655
主婦（ファミリー含）	133	141	136
雇い入れ時	3,368	3,670	2,427
海外渡航時	951	917	883
V D T ・ 特殊	1,462	1,551	1,209
特定健診	236	203	220
二次検査	823	716	921
その他（単科健診）	3,411	3,013	3,287
航空身体検査	6,043	6,078	5,891
各種予防接種	4,865	4,731	5,028
合計	56,356	53,642	51,877

2. 中小企業巡回特殊健康診断

就労者の高齢化、業務縮小など懸念材料もあるが、前年並みを確保した。

健診項目・内容			平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
中小企業 巡回特殊 健康診断	東京	有機溶剤	80	76	76
	茨城	振動	11	8	10
		有機溶剤	5	10	10
合計			96	94	96

3. 人間ドック

健康保険組合によるドック制度見直しの流れは止まらず、従来の人間ドック対象者が生活習慣病健診と内容を変えて利用している傾向があった。健康診断と同様、健保との直接契約ではなく、予約代行機関を通じての利用が増加している。健保組合・企業を対象に、疾病の早期発見・健康教育としての人間ドックの正確さ、迅速性、専門性、二次検査への連携、快適性を訴え、「選ばれるドック施設」を目指し、利用者の増加につとめた。

霞が関ビル診療所の受診数増加があったものの、東都クリニックにおいて受診数で前年割れが生じ、総体として前年比減となった。脳ドックをはじめとする専門ドックの伸びが見られたように、ターゲットを絞った専門的検査への需要があるので、今後も新企画の開発を行っていく必要がある。

健 診 種 別	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
半 日	19,577	20,158	19,818
宿 泊	156	146	159
スーパー／プレミアム	352	377	331
脳	391	368	286
そ の 他 専 門	38	23	36
合 計	20,514	21,072	20,630

II. 健康指導

1. 当日結果説明の充実

引き続き東都クリニックの血液検査施設により、霞が関ビル診療所も含め、人間ドック受診時の医師による当日検査結果説明が受診者・契約先には好評である。今後もリピーターの増加、健康教育としての人間ドックの利点の宣伝に奏功するものと期待される。

2. 保健指導室の活動

引き続き禁煙外来のフォローを行なった。特定保健指導については従来通り東都クリニック、霞が関ビル診療所両施設において実施している。また健診受診後の受

診者への聞き取り調査・受診勧奨（後追い調査）は、健康意識の向上と再検査および精密検査での施設利用（保険診療）に一定の寄与をしている。

全衛連の集合契約による「東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究」に協力し、対象者からの相談受付、健診への支援を行った。

内容	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
後追い調査	4,481	1,458	1,529
特定保健指導（積極的支援）	58	61	76
特定保健指導（動機付け支援）	87	55	88
合 計	4,626	1,574	1,693

3. その他の活動

東都クリニックにおいて無料の糖尿病発症予防教室を開始し、近隣の事業場や人間ドック、健診で指摘を受けた受診者に対する啓発を開始した。また人間ドック受診後の食事指導の面から契約レストランでの食事メニューへの指導を開始した。

Ⅲ. 診療事業

外来診療部門として医療本来の診断・治療に加え、健康診断・人間ドック等で再検査や精密検査あるいは治療が必要となった利用者のため、充実した医療体制を維持した。

新たに遺伝相談クリニックを開設し、次世代医療の開発を開始した。

なお粒子線がん相談クリニックは、東都クリニック内の一部門に変更し、がん治療のセカンドオピニオン外来として実績を積み重ねている。

年度	平成 28 年度			平成 27 年度			平成 26 年度		
	新患者	再診	合計	新患者	再診	合計	新患者	再診	合計
霞が関	4,484	20,548	25,032	4,904	21,780	26,684	4,921	21,857	26,778
東 都	4,277	29,750	34,027	4,178	28,772	32,950	3,908	26,773	30,681
粒子線	176	88	264	235	122	357	412	134	546
合 計	8,937	50,386	59,323	9,317	50,674	59,991	9,241	48,764	58,005

Ⅳ. 衛生思想の普及啓発、各種講習会、講演会、研究会等の開催、広報活動

労働者の高齢化や生活習慣・労働環境の変化、学会・厚生労働省での論議を踏まえ、最新の労働衛生思想の普及と啓発に努めた。

1. 産業保健活動

- 1) 特定保健指導に関しては、保健指導室が中心となり一定の保健指導実績を積み上げたが、各健保など保険者からの要望である特定保健指導の需要には追い付けていない。なお今年度は事業場に出向いての保健指導活動の実績はなかった。

- 2) 財団所属の労働衛生コンサルタントおよび認定産業医により、多くの事業場において衛生管理、衛生指導、衛生教育を実施した。従来通り指針「過重労働による健康障害防止のための総合対策」に基づく職場における精神衛生管理の実践として、契約産業医が事業場担当者、健康管理室等と連携し、ストレス障害の防止をはじめとする労働者の健康増進に努めた。なお、法制化されたストレスチェックに関する業務では、需要も多く、新たな産業医契約と同時にストレスチェック実施者契約を結ぶなど事業主の希望に沿った活動を展開したが、収益の柱に育つにはまだまだ時間がかかりそうである。
- 3) ストレスチェックに関わる業務の増加、責任範囲の拡大などにより産業医活動に割かねばならない時間が増し、財団所属の労働衛生コンサルタントおよび認定産業医では顧客の要望に応じきれなくなり、外部の産業医等との契約をすすめた。今後も優良顧客の繋ぎとめのためにも産業医の確保・開拓は重要である。なお、ストレスチェック実施者契約を契機に産業医契約の見直し、適切な契約再締結に結びついた面もあった。

2. 講習会・講演会・研究会等の開催（主催）

- 6月 9日 東都クリニック 糖尿病発症予防教室開始
- 7月21日 東都クリニック 接遇講習会
- 7月27日 東都クリニック 災害時対応勉強会
- 7月27日 霞が関ビル診療所 接遇研修会
- 9月14日 霞が関ビル診療所 インフルエンザ対策勉強会
- 10月11日 東都クリニック インフルエンザ講習会
- 3月23日 第48回健康医学研究会総会・懇親会 ホテルニューオータニ

3. 広報活動

- 3月23日 「健康医学」第47号発刊
- その他渉外活動やホームページを通じて、産業衛生や労働保健等に係わる情報提供を発信している。（健康医学協会ホームページの URL <http://www.kenkoigaku.or.jp/>）

4. 学会発表

- 1) 第59回 日本糖尿病学会 年次学術集会
平成28年5月18日から5月21日
会場： 国立京都国際会館他
演題：「薬物療法(DPP-4阻害薬-2)」
演者： 医師 服部 幸子
- 2) 第115回 日本皮膚科学会 学会総会
平成28年6月3日から6月5日
会場： 国立京都国際会館
演題：「黄紋筋融解症を伴った典型的 DIHS の1例」
演者： 医師 竹内 瑞恵

5. その他の会議・協議会などへの参加

1) 公益社団法人全国労働衛生団体連合会（全衛連）

- 6月13日 平成28年度総会・記念講演 ホテルJALシティ田町
- 10月14日 第1回東京地区協議会・特別講演 ホテルグランドヒル市ヶ谷
- 11月 2日 運営研究協議会・講演会 ホテルJALシティ田町
- 11月19日 関東地方協議会定例会議 箱根湯本ホテル
- 3月21日 第2回東京地区協議会・特別講演 ホテルグランドヒル市ヶ谷

2) 東京都産業保健健康診断機関連絡協議会（都産健協）

- 4月15日 定期総会 三田NNビル NNホール
- 2月24日 研修会参加 後樂園飯店

3) 一般社団法人労働保健協会（労働保健協会）

- 6月28日 定期総会 リヴィエラ東京
- 12月10日 研修会 朝日生命大手町ビル

4) その他への参加

- 4月23日 OZAK会 新人研修会 幕張国際研修センター
- 5月12日 麹町法人会ビジネス交流会 ホテルグランドパレス
- 6月30日 労災自賠責算定基準説明会 アルカディア市ヶ谷
- 7月 8日 航空身体検査指定医講習会（事務部門）
- 7月 9日 航空身体検査指定医講習会（医師部門）
- 9月14日 全国健康増進協議会講演会「今後の健康管理を考える」
- 9月27日 保健審査の実施・レセプト審査講習会 アルカディア市ヶ谷
- 10月 2日 第24回OZAK会学術集会 幕張国際研修センター
- 10月13日 産業保健フォーラム IN TOKYO 2016 運営協力 タワーホール船堀
- 11月10日 （一社）東京都総合組合保健施設振興協会（東振協）懇親会 第一ホテル両国
- 12月8日から9日 保健師・看護師等研修会(労働衛生コース) 東京三田NNホール
- 12月10日 外部職員研修会参加(新人3名) フクラシア東京ステーション

V. コンピューターシステムの推進、施設・設備等の整備

1. コンピューターシステム

旧システムの保守終了に伴い、8月から9月にかけて財団法人人間ドック健診基幹システムを新システム「SUMMITS II」に切り替えた。当初は全く新しい概念に基づくシステムであるため困難な場面もあったものの、現在では安定したシステムとして業務の効率化に寄与している。今後はさらなる改良を加え、より使いやすく効率的な運用の柱としたい。なお、人間ドック・健診予約業務におけるWEB予約画面を始めとするインターネット利用は従来通り威力を発揮し、予約業務の効率化に貢献している。

また、特定健康診査・特定保健指導時のXMLデータ作成、事業所・健保からの要請に基づくカスタムデータ作成などきめ細かいサービスをひきつづき行い、顧客からの要望に応えることができた。

2. 施設、設備等の整備

充実した施設、設備の医療体制を維持した。

- 1) 東都クリニック、霞が関ビル診療所ともに内視鏡検査の充実拡大を行った。
- 2) 東都クリニックに光干渉三次元眼底カメラを導入し、眼科診療の充実化を行なった。
- 3) 遺伝相談クリニックを開設し、次世代医療の開発を開始した。
- 4) 粒子線がん相談クリニックを東都クリニック内の部門とし、収益改善に向けた効率化をはかった。
- 5) 保健指導室において、特定健康診査・特定保健指導の推進および人間ドック実施後の後追い調査、二次検査受診勧奨、産業衛生研究などを行なった。

VI. 精度管理

検査データ・判定の正確性のために、精度管理の維持・向上を目指し、内外を問わず精度管理事業への積極的な参加と改善を行った。

1. 機能評価施設認定

今年度は霞が関ビル診療所において労働衛生サービス機能評価（全衛連）を実施した。

2月8日 霞が関ビル診療所施設調査

2. 精度管理事業への参加

平成28年度全衛連総合精度管理調査の結果

- 1) 労働衛生検査に関する精度管理調査（鉛又は有機溶剤）※外注
東都クリニック 施設評価【優】
霞が関ビル診療所 施設評価【優】
- 2) 臨床検査に関する精度管理調査〔生化学検査(12項目)、血液学的検査（6項目）、尿検査(3項目)〕
東都クリニック 施設評価【優】
霞が関ビル診療所 施設評価【優】
- 3) 胸部エックス線検査に関する精度管理調査
東都クリニック 施設評価【良】
霞が関ビル診療所 施設評価【良】
- 4) 腹部超音波検査に関する精度管理調査
東都クリニック 施設評価【優】
霞が関ビル診療所 施設評価【良】

Ⅶ. 会議

下記日程で開催した。

1. 定例理事会

日時	平成28年5月27日(金)
場所	東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル7階
議案	第1号議案 評議員会の開催日程及び議案(案)に関する件 第2号議案 平成27年度 事業報告に関する件 第3号議案 平成27年度 決算、監事監査に関する件 第4号議案 公益目的支出計画実施報告書承認の件 第5号議案 任期満了に伴う理事及び監事の選任(承認)に関する件 第6号議案 その他に関する件 第7号議案 代表理事選任並びに専務理事、常務理事選任(承認)に関する件

日時	平成29年3月23日(木)
場所	東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル7階
議案	第1号議案 評議員会の日時及び場所、議案について 第2号議案 平成29年度事業計画承認に関する件 第3号議案 平成29年度収支計画承認に関する件 第4号議案 その他に関する件

2. 定例評議員会

日時	平成28年5月27日(金)
場所	東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル7階
議案	報告事項 平成27年度 事業報告に関する件 第1号議案 平成27年度 決算、監事監査に関する件 報告事項 公益目的支出計画実施報告書承認の件 第2号議案 任期満了に伴う理事及び監事の選任(承認)に関する件 第3号議案 代表理事選任並びに専務理事、常務理事選任(承認)に関する件 第4号議案 その他に関する件

日時	平成29年3月23日(木)
場所	東京都千代田区紀尾井町4-1 新紀尾井町ビル7階
議案	報告事項 平成29年度事業計画承認に関する件 報告事項 平成29年度収支計画承認に関する件 第1号議案 その他に関する件